

お母さんへ

私はお父さんの声を知りません。お父さんの手のあたたかさも知りません。でも、お母さんはお父さんの分まで二倍大切にしてくれました。ありがとうございます。

口で言うのははげしいけど、ありがとうございます。ってバの中なら何回も何回も言ってます。お母さんには心から感謝しています。産んでくれてありがとうございます。そだててくれてありがとうございます。今ならお母さんにあり、たけのありがとうございますを言えます。

私が他の家族づれをみているとお母さんは、「お父さんほしいつに」と言ってくれました。私はそのたぐい、「コウくん」とこたえました。本当にほしくないわけではあります。でも、時々「ほしい」と思ったりあります。でもお母さんは「お父さんじゃ、あなたを守れないと思っただいじょうぶ。あなたは私のたからものよ。」って言うてくれて泣きそうになりました。お父さんなんていりません。お母さんがいるだけで私はしあわせです。

いつもお母さんは私にありがとうございます。って言うてくれています。私も言いたいのに。でも中々、いえません。

でも、手紙なら何度だって言えます。ありがとうございます。

お母さんは私の自満です。



高島 葵より

